

空気清浄機に関するアンケート調査

Questionary survey about the air purifier

西 桂子¹⁾ (非会員), ○川上 裕司²⁾ (会員), 橋本 一浩²⁾ (会員), 永野 景子³⁾ (非会員),
小田 尚幸²⁾ (会員), 野村 綾子³⁾ (非会員), 野尻 妙子²⁾ (非会員)

¹⁾ ㈱リビングくらし HOW 研究所, ²⁾ ㈱エフシー総合研究所 環境科学研究室,
³⁾ サンケイリビング新聞社

Keiko Nishi*, ○Yuji Kawakami**, Kazuhiro Hashimoto**,
Keiko Nagano***, Hisayuki Oda**, Ayako Nomura***, Taeko Nojiri**

*Living Kurashi How Institute, Inc.

**Laboratory of Environmental Science, FCG Research Institute, Inc.

***Sankei living Shimbun Inc

Abstract: The questionnaire survey about air purifiers was conducted from July to August 2015, targeting the monitors of Living Newspaper Group in various parts of Japan. We asked 16 items of questions about air purifiers, such as the model and the purpose of purchase, to 439 people who own air purifiers and 207 people who do not, then totaled and analyzed 646 answers (statistically effective samples). As a result of the analysis, respective features were found according to three divisible groups; those using the monofunctional type air purifiers just for purifying the air, those using ones with the facility to humidify type air purifiers, and those not owning air purifiers. The two major purposes of purchase were " measures against allergen such as pollen and house dust " and " measures against cold and influenza ".

キーワード: 空気清浄機 (air purifier), アンケート調査 (Questionary survey), アレルゲン (allergen), モニター (Monitor)

1. 緒言

近年, 国民の約半数が何らかのアレルギー疾患を抱えていると言われる。これを背景とするかのように, 空気清浄機を利用する家庭が増加傾向にある。実際に内閣府の調査では, 一世帯当たりの空気清浄機の普及率は 2010 年以降, 毎年 2% ずつ上昇し 2015 年には 44.4% に達している。演者らは, 「空気清浄機の購入動機や用途」を明確にすることを目的として, 一般消費者を対象に空気清浄機に関するアンケート調査を実施した。

2. 方法

2015 年 7 月～8 月にリビング新聞グループが有する日本全国の読者モニターを対象として, 電子

媒体によってアンケート調査を実施した。空気清浄機に関する使用機種や購入目的など 16 項目について, 有効回答が得られた合計 646 名のモニターからのアンケート結果を集計・解析した。

3. 結果および考察

646 名のうち, 空気清浄機を所有するモニターは 439 名 (68.0%), 空気清浄機を所有していないモニターは 207 名 (32.0%) であった。

3-1. 空気清浄機の種類

439 名が使用している空気清浄機の種類は単機能空気清浄機 (空気清浄機能のみに特化) が 193 名 (44.0%), 加湿機能付き空気清浄機が 220 名 (50.1%), 両方とも使用しているモニターが 26

名 (5.9%) であった。

3-2. 購入目的

単機能空気清浄機 (193 名) の主な購入目的は、「花粉の除去」が 141 名 (73.1%), 「ハウスダストの除去」が 132 名 (68.1%) と多かった。いずれもアレルゲンとして著名である。続いて、「ウイルスの除去」が 89 名 (46.1%), 「生活臭の除去」が 78 名 (40.4%), 「カビ」の除去が 56 名 (29.0%) と多かった。

一方, 加湿機能付き清浄機 (220 名) は, 「花粉の除去」が 160 名 (72.7%), 「ハウスダストの除去」が 153 名 (69.5%) と多いのは単機能型と同様であったが, 次に「乾燥を防ぐ」が 135 名 (61.4%) と多く単機能型と異なる結果であった。また, 「ウイルスの除去」(132 名・60.0%), 「生活臭の除去」(83 名・37.7%) と単機能型と同様に続いた。

3-3. 利用者が罹患しているアレルギー

空気清浄機を利用する 439 名のうち, 家族が何らかのアレルギーに罹患していると答えたモニターは 257 名 (58.5%) であった。一方, 空気清浄機を使っていないと答えた 207 名のうち, アレルギー罹患有りと答えたのは 95 名 (45.9%) であった。空気清浄機を利用している家庭の方が, アレルギー罹患の割合が 10 ポイント以上多い結果であった。

空気清浄機を利用する 439 名のうち, 最も多かったアレルギー症状は「花粉症」で 226 名 (51.5%) に達した。次に, 「アレルギー性鼻炎」が 141 名 (32.1%), 「アトピー性皮膚炎」が 74 名 (16.9%), 「気管支喘息」が 62 名 (14.1%) であった。

アレルギー性鼻炎については, 単機能型清浄機の利用率が 41.8% であったのに対し, 加湿付き清浄機が 51.8% と高かった。鼻・喉の潤いを求めようとする消費者の購入傾向が伺えた。

3-4. 加湿付き清浄機の使用実態

空気清浄機を毎日 24 時間作動させているモニターは 30~40% に達した。また, 加湿機能は乾燥が気になる時だけスポット的に使用するモニターが多かった。その反面, 毎日 24 時間, 加湿機能を使用しているモニターも 9.4% 存在した。

今後, 空気清浄機の普及が下降線になるとは思われず, 確かな機能性が求められるだろう。

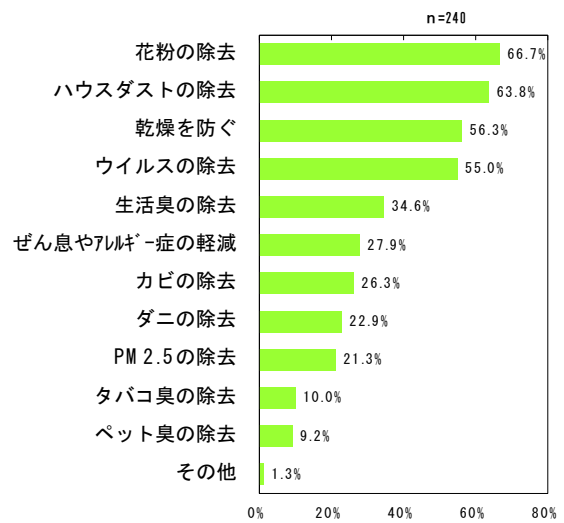


図 1 空気清浄機の購入理由 (加湿付きの場合)

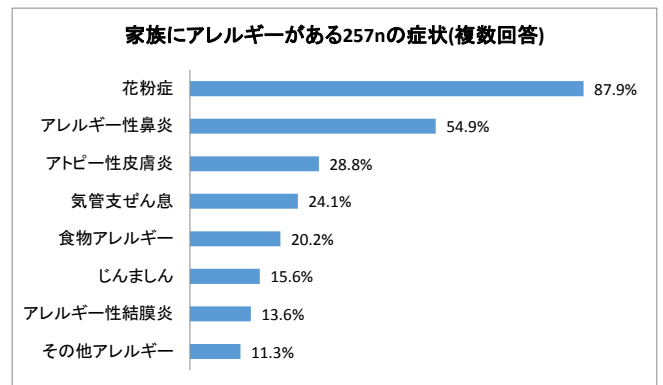


図 2 モニターの家族が罹患するアレルギー

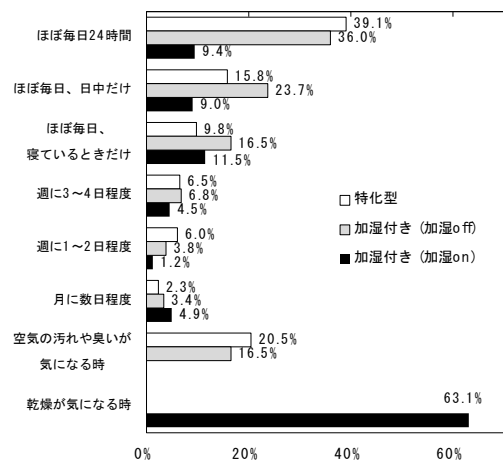


図 3 加湿清浄機の使用状況